



宝城中学校だより

令和8（2026）年6月4日

第43号

校長 小田 哲也

学校教育目標：「志をもち、よりよい社会の創り手として未来を切り拓く生徒の育成」

1. 野球部、県大会3位おめでとう。

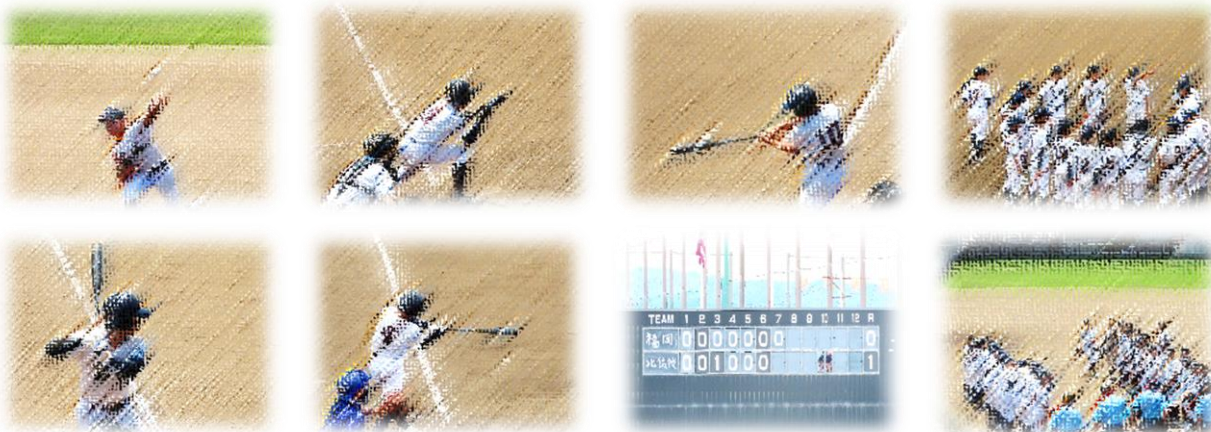
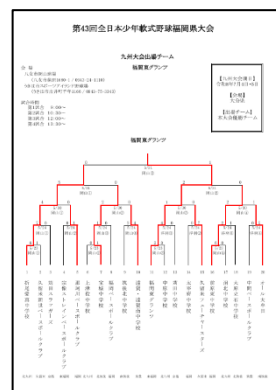
体育大会が終わった次の週から、第43回全日本少年軟式野球 福岡県大会が始まりました。この大会は、その前の予選を勝ち上がった全20チームが試合をするもので、野球部のみなさんも地区の予選を勝ち上がって「北筑後」の代表として出場しました。

実は現在のチームは、技術的にもよくまとまっていて、去年の新人大会から数えて県大会への出場は3回目となりました。県大会はレベルも高く、1勝が遠く、2回のチャレンジではその壁に跳ね返されてきたのです。

今回は5月23日（土）に1回戦が行われました。行き詰まる投手戦、0対0のまま、7回表裏引き分け、タイブレークによる延長戦で、見事、県大会初勝利をあげました。そして勢いに乗って、次の試合は1-0、準々決勝は2-0で勝ち上がりました。迎えた準決勝は0-5で惜しくも敗れましたが、堂々県で3位という結果を残しました。

試合を観ていると思うのは、「本番で力を発揮する」ということがどれだけ難しいことなのかということです。普段どおりに力を発揮するのは本当に難しいことだと感じます。接戦になれば緊張の度合いは増し、肩に力が入る、足が思うように動かない、バットにボールが当たらない、などなど、あんなに練習したのに・・・と、歯がゆい思いをした選手もいたことでしょう。そんな中で、試合に出ていない選手たちは、祈るような気持ちで声を出して応援していました。「自分も試合に出たい」という気持ちはあるでしょうが、様々な場面で出場している選手のサポートをよくやっていました。また、保護者のみなさんも、沢山応援に駆けつけてくれていました。

考えるに、「本番で力を発揮する」ためには、まず「自分は1人ではない」ということを自覚することが大切なのではないでしょうか。それも普段から意識していることが大切で、「失敗をしてもカバーしてくれる仲間がいる」「応援してくれるチームメイトや保護者、地域の方がいる」という認識が、「失敗を怖れない勇気」につながり、思い切ったプレイや真剣な練習につながり、本番を迎えることができると思うからです。



※二ノ宮先生も、応援にきて写真を撮ってくれていました。感謝ですね。

2. うきは市・小郡市・三井郡ブロック中体連陸上大会でがんばりました。

5月29日(土)にうきは市・小郡市・三井郡ブロック中体連陸上大会が、小郡市運動公園陸上競技場にて行われました。本校からは、3年生から さん、1年生からは、 さん さん計3名の皆さんが自分自身の可能性に挑戦して、大会に参加しました。少ない練習時間でしたが、毎朝コツコツと走っている姿を見ていました。また、3名とも筑後地区大会に出場が決定しました。筑後地区大会でも、全力で駆け抜けて欲しいと思います。



3. 特設合唱部の活動が始まりました。

5月26日(火)の昼休み、特設合唱部の発足式が行われました。

1年生から3年生まで、合計60名近い生徒が音楽室に集まってくれました。「合唱は仲間づくり」と言いますが、それはお互い「声を出せる」関係性になることが大切ということです。先輩も後輩も「信頼できる仲間」としてつながって欲しいと思います。

そしてこの活動を支えている生徒会拡大執行部のみなさん、今年の文化発表会に向けた取組がスタートしたと思って良いでしょう。それぞれ忙しさもあると思いますが、本番の合唱を楽しみにしておきます。



4. コミュニケーションのゴールについて

オーストリア出身の心理学者アドラーは、「あらゆる悩みは対人関係に行き着く」と提唱しています。

例えば、私も色々な悩みや不安を抱える経験は多くしてきましたが、その根っこを探っていくと「人からどう思われるだろうか?」とか「信頼関係の構築がうまくいかない」など、だいたい対人関係のことに当てはまるようです。(今は、年齢と共に「人にどう思われても気にならない」感じになってきていますが、それでも悩みは尽きないです。)

一般的に対人関係がうまくいかなくなる時は、「行き過ぎたコミュニケーション」や「すれ違いのコミュニケーション」、「コミュニケーションそのものが無い」など「コミュニケーション」が要因になることが多いようです。

毎年、学校では同じような生徒同士でのトラブルがおきますが、話を聞くと「友達にちょっかいをかける」「からかう」「人を笑いものにする」などが原因になっています。これは「行き過ぎたコミュニケーション」に当てはまります。友達に相手にして欲しいなら、ちょっかいをかけたり、からかったりするべきではないし、笑いものにするなど、相手を傷つける行為です。そして、ケンカになったり、お互いを嫌いになったり、せっかく友達になれるチャンスなのに、お互いを傷つけあうコミュニケーションを続けていくうちに、学校に行くことも億劫(おっくう)になるでしょう。

私は、「コミュニケーションのゴールは相手を元気(勇気)づけること」だと考えています。お互いが会話をしていて、あるいは会話をしていなくても一緒にいて、心が落ち着き、明日への元気がもらえる、そんなコミュニケーションができるようになって欲しいと思います。そして、日々の言動を磨いて欲しいと考えています。